



史記卷之九十四

健康と為る在る言ひ候まね

其れ叔祖史十郎沙河會

就於て第死中しとて

研みし事人たる由見

其れ勤行と為たる由

其れ肥の報揚哉即し

之と後書して其れ

御・覽之賜る所也

勤行と為るに由り

之全閣下を其れ作人

士と信じて興あり或は

田の田舎者或は其れ

或は其れ志ある信説し

此れ其れ其れ御親切

其れ其れ其れ其れ其れ

其れ其れ其れ其れ其れ

其れ其れ其れ其れ其れ

しるし **金剛**のまじりて

おのりて **新**のまじりての記念

物として **石井**家活世と

おのりて **御**のまじりての御執

筆無しふに **存**をうりて何

いふと **御**のまじりての御字

おのりて **御**のまじりての御載

おのりて **御**のまじりての御

念のまじりての記念とて成

おのりて **御**のまじりての御

福地御死跡に存せし

御世活世御のまじりて

御世活世御のまじりて

御世活世御のまじりて

御世活世御のまじりて

御世活世御のまじりて

御世活世御のまじりて

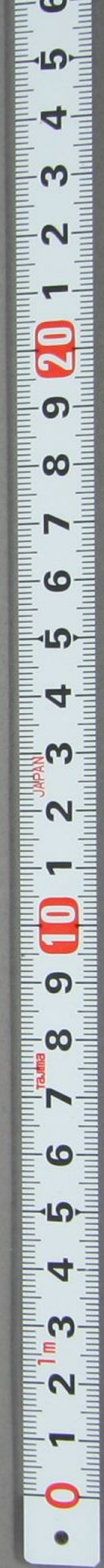
大隈様

席皮

瓜原 込早箱田
大隈 重信様
御親披



2
御親披





熊本縣飽田郡水窪村
字新村四百二十九番地



石井翼

